

柔道整復療養費取扱説明会に605名が参加

11月27日(水)・28日(木)の両日、午後1時30分より3時まで、本会3階講堂にて柔道整復療養費取扱研修会が行われた。2日間で605名(会員外4名含む)が参加し、1日目は全国健康保険協会愛知支部業務部長の深沢英二氏ほか2名、2日目は県労働局地方労災医療監察官の小塚益代氏が来賓として同席された。

深沢氏は、財政支出の現状を報告され、適正に審査していくことに努めていきたいのご理解頂きたいと説明。保険証確認の徹底、日常生活の注意事項を含め早期治癒を促すような長期受診者に対する指導管理を要望された。小塚氏は、患者さんに労災適用について懇切丁寧に説明してほしいと述べられた。

研修は以下の項目について行われた。

1. 柔整学校・柔整業界の現状報告 (森川副会長)

柔整学校の推移、学生数や学校数の現状と今後、柔整登録者数、就業柔整師、施術所の増加推移、療養費制度などについて説明し、返戻への対応には施術録の整備が前提であることをあらためて強調した。



2. 療養費取扱い上の注意事項 (堀保険部長)

最初に、9月13日にフジテレビで放送された「とくダネ」の整骨院不正請求問題の動画の冒頭5分間を紹介した後、次の項目について説明した。

- ①厚労省通達事項の再確認
- ②審査会及び保険者の取組み等について
- ③返戻について
- ④申請書提出時の注意事項



3. その他

無傷の請求、6症以上の請求、情報提供料の請求、骨折脱臼の応急処置としての後療は回数制限がないこと、施術指針表、施術録の記載、月末文書の必読について注意点を説明。

柔道整復師・接骨院・整骨院の急増など様々な要因により取扱件数の大幅減少が続く厳しい業界の現状を反映してか、例年に比べ参加会員数が非常に多いうえ、ひたむきな表情で受講する会員の姿が目立った。



災害救護赤十字奉仕団講習会

12月1日(日)午前10時から正午まで、災害救護赤十字奉仕団講習会が、日本赤十字社愛知県支部より浅見克実・因田和夫の2講師をお招きして本会講堂にて開催され、会員38名と勤務柔整師2名が熱心に受講した。

10時5分から10時30分まで「東日本大震災～被災地での40日間～」と「東日本震災から2年～4つのストーリー～」と題する2枚のDVDによる震災後の日赤の支援活動報告とともに、幅広い人道支援を行う日赤の活動への理解と支援金協力を求められた。

10時30分から11時まで浅見講師による応急手当の基礎的知識の講習が行われ、応急手当の目的や必要性、成人・子供の突然死の防止、感染防止、周囲の安全確認、止血法、外傷の応急手当について詳述された。

11時5分から正午まで浅見・因田両講師により三角巾包帯法の実践が行われた。三角巾使用上の注意、基本となる「たたみ三角巾」の作り方、たたみ方など重要な基本事項について説明。また通常の講習では行わない頭部や陰部・下腹部・殿部の被覆、両眼や片眼損傷に対する圧迫など、日赤の教本にも載っていない特異な損傷部位への三角巾包帯法の指導により、ふたり一組で互いに傷病者・救助者になり実技を行った。

最後に赤十字救急法短期講習受講証を受け取り、講習会が盛会のうちに終了した。

久野信彦会員(笠寺)が テレビ・ラジオに出演

- クロノス 東京FM(全国38局ネット放送)
11/28(木)8:00~8:10

「きんトレについて」元Jリーガー中西哲生氏と

- ほっとイブニング NHK 12/3(火)18:05~19:00
「クノンボールの実践とデイケアホームについて」

- さらさらサラダ NHK 12/10(火)11:30~11:50(スタジオ生放送)
「クノンボールの使用方法及び効果について」山本志保・黒崎めぐみアナウンサーと



石田健太郎理事が「保健医療功労賞」を受賞



石田健太郎理事が、本会推薦により県表彰である第65回「保健医療功労賞」を受賞し、11月22日(金)愛知県庁2階大講堂にて授与式が行われた。50歳以上、役員歴20年以上、保健医療、社会福祉、教育文化、地方自治等に貢献した人10団体から45人と3団体に贈られた。

3年前、鈴木昭二元理事が受賞されて以来2人目の受賞となるが、石田理事は、「この賞は、私が愛整会を代表して受け取りに行ったもので、会全体が戴いたものだ」と解釈しています。今後1人でも多くの会員が推薦され、申請して受賞されることが柔道整復師業界全体の地位向上に繋がるものと解釈しております」と語った。

日赤街頭募金活動 12月7日(土)

名古屋駅前付近で日本赤十字社愛知県支部から海外たすけあい街頭募金活動の依頼を受け、県下10奉仕団65名団員とともに、愛知県柔道整復師会災害救護赤十字奉仕団として、佐藤鋤樹熱田支部長・小林弘治事業部長の2名が参加した。



半田市セカンドライフフェスティバル2013

木之本達明(半田)

11月24日(日)、半田市のアイプラザ半田市立さくら小学校にて「セカンドライフフェスティバル2013、あなたの生きがい、いつ見つけるの?今でしょ!」が開催されました。セカンドライフフェスティバルとは、新たな人生の楽しみ方、持ち前の技能や経験を活かして活躍できる場を探すこと。コンサートやバー、グルメ屋台など誰もが楽しめる企画から、健康コーナーやボランティア、市民活動の紹介をする催しです。当日は少し肌寒いものの天候にも恵まれ多くの来場者で賑わいました。半田支部は健康コーナーに接骨院ブースを設け、12名の会員が前日から準備に入り、姿勢分析、足型測定を元に健康相談を行いました。始まる前の石川真会員の、今年も笑顔で頑張りましょうという言葉を含め、各会員の臨床経験を生かした的確なアドバイスや明らかにさせるテクニックで笑顔が絶えることなく、203名の方が利用され大盛況に終わりました。



愛知県ジュニア強化競技向上練習会(柔道)救護活動

作田新之助(岡崎)



12月15日(日)午前9時半より、愛知県ジュニア強化競技向上練習会が愛知県武道館で開催された。愛知・岐阜・三重・静岡の男子52校、女子33校、計85チームの団体戦、約400名以上の小・中学生が参加して行われた。

岡崎支部会員8名(西山三雄、山本正大、本田純緒、菊地幸禎、作田新之助、小川一隆、鈴木清孝、市川幹也)が、第一競技場(男子)、第三競技場(女子)の2会場に分かれ救護を担当した。参加選手の多数が白帯のため、十分な救護備品を準備して臨んだ。

緊急対応に備え、全試合終了時まで緊張感を持って対応し、重度を含む新鮮外傷の20名以上に応急処置を行った(骨折4名、頭・頸部損傷2名、捻挫・打撲・挫傷10名以上)。反省や課題もあったが緊急救急搬送者は0名にて無事に終了したことに安堵した。

今回の救護活動を円滑にいただいた会場責任者水野博介(東海中学校教諭)・佐田修司先生(扶桑北中学校教諭)及び関係者様、本支部の為に急遽ご厚志、ご支援をいただきました小林弘治事業部長、森正仁会員(半田)にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

Welcome!!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
鶴飼 聡	S48.8.13	大曾根	名古屋福祉	—	野球

